

介護老人保健施設しおん

症 例 概 要 利用者氏名：〇様・女性（80代・要介護4）

利用期間：平成28年12月～

経過：平成28年11月誤嚥下肺炎で石巻市内の病院に入院。発熱もなく退院の方向で調整していたが、以前入所していた施設への再入所が困難となり当施設入所となる。

内 容

入所当初から脳出血後の後遺症でADL全介助、発語もなく、意思疎通が難しい状態でした。3食ベッド上介助にてお食事を召し上がっていましたが、施設に慣れた事とりハビリを継続した事で昼食時離床出来るようになりました。〇様は人見知りをするのか、介助者によって食事量も0割から10割とむらが見られ、看護師や介護士でご本人への声掛けを工夫し、表情の変化を観察し食事量の確保に努めました。食事摂取量が確保でき、体力付けのため徐々に離床時間を増やし、3食とおやつ時間も離床するようになりました。

しかし昨年年9月頃から食事の摂取量が著しく減少し、多職種と連携してケアを行なうも一向に改善せず、体重も減少していきました。施設内カンファレンスを開催し、施設内での看取りの方針となり、施設長からご家族へ食事摂取も難しく経管栄養も視野に入れ選択してもらうように説明しました。ご家族の意向で経管栄養を選択し病院受診を行うも断念、看取り介護開始となり、ご家族から食べさせたい物と、〇様が昔聴いていたCDを持参していただきました。臥床している際はCDを流し、ご家族が持参した物と施設の食事と並行し摂取し始めると、看取り介護から2ヵ月後好転し全量摂取できるようになり、3ヵ月後には看取り計画書期間を3ヵ月に延ばすまでに回復しました。離床時間も増加し、表情も豊かになり職員の声掛けにも「おはよう」や「あるよ」等単語を発するようになり頷く回数が増え〇様の大好きな野球や相撲をテレビ観戦するようになりました。今年の4月には花見で外出し、おやつも食べてきました。後日、息子様へ報告すると〇様は涙を浮かべ「桜」と繰り返し、その姿を見て息子様はとても喜び「お父さん、良かったね」と話しかけていました。その後、入所当初から挿入されてあったフォーレも抜去し自力で排尿するまでになりました。

今年5月に他施設へ入所のため退所の運びとなりました。後日、ご家族が当施設へいらっしゃり職員へ感謝の言葉と共に「もう一度、しおんへ戻って来たいんですが」と希望されていました。

今回、看取り介護を提案した際に家族は受け入れられずにいましたが職員が今まで以上に家族とコミュニケーションを図り、〇様に接する事で信頼関係が築けました。ご家族も〇様が回復すると期待し面会回数も増えた事で安心し回復する事が出来たのだと思います。元気な姿で退所された事は職員の喜びと励みになりました。ひとりでも多く笑顔で在宅復帰ができるように今後も取り組んで行きたいと思ひます。